

評価項目	評価指標	具体的方策	評価基準				最終評価			
			4	3	2	1	評価	成果○と課題▲	改善策	
確かな学力の育成	各種学力調査で全国平均値を超えることができる。 3年：全国学力学習状況調査 1年,2年：CRT【国社数理英】	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員で本校の課題を共有化し、個に寄り添った学習支援をするために、「学習定着週間」や長期休業中の補充学習を行う。</li> <li>国・数・英3教科の家庭学習ノートの取組を行い、授業で学んだことを繰り返し学習させたり、振り返りを行わせたりしていく。</li> <li>各種テストにおいて、生徒実態を把握し、PDCAを行い授業改善につなげる。</li> </ul>	全国平均を上回る教科の割合	80%以上	60%以上	40%以上	40%以下	4	※全国学力・学習状況調査(3年)の結果 各教科の平均正答率(全国平均との差) 国語78% (+8) 数学53% (+4) 英語44% (+1)  ※標準学力調査(1・2年)の結果 1年の平均正答率(全国平均との差) 国語67.1%(+5.1) 社会60.0%(+0.9) 数学60.8%(+7.1) 理科63.8%(+2.8) 英語57.1%(+2.9) 2年の平均正答率(全国平均との差) 国語67.9%(+0.1) 社会50.3%(+3.2) 数学53.9%(+5.1) 理科60.4%(+3.4) 英語47.8%(-1.7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学力調査の結果を細かく分析し、生徒の弱点を把握し、各教科担任の授業力向上に努める。</li> <li>研究部が中心となり、授業力向上に向けた研修を定期的に行っていく。</li> <li>家庭学習ノートとHR学習の内容をリンクさせ、各教科の弱点補強を行っていく。</li> </ul>
豊かな心の育成	生徒の自尊感情を高める肯定的な回答を全校で80%以上にする(QUアンケート「みんなのためになることを自分で見つけ実行している」項目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>あらゆる教育活動において、生徒がポジティブに自己を捉えるよう、タイミングの良い肯定的評価を学校、保護者、地域が一体となって行う。</li> <li>体験活動の意義を説明し、生徒に意欲を持たせる。</li> </ul>	第2回QUアンケートの肯定的回答の割合	80%以上	70%~79%	60%~69%	60%未満	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>※自尊感情を高める問いに対する肯定的な評価の割合 1年・・・68.4% 2年・・・64.5% 3年・・・70.1%</li> <li>○コロナ禍が明け、様々な体験活動を再開させることができた。</li> <li>●体験活動を通して、自尊感情を高めるような事後指導が不十分であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、体育祭や文化祭の内容を生徒目線で大きくチェンジすることができ、生徒の自尊感情を高めることには一定の効果があったと思われる。引き続き、生徒の声に耳を傾けながら、生徒主体となって取り組める行事を行っていきたい。</li> </ul>
健やかな体	体力テストで、体力項目の70%以上、全国・県平均を上回る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自目標値を持って取り組ませる。</li> <li>○弱点補強を授業とリンクさせる。</li> </ul>	全国・県平均を上回った項目の割合	70%以上	60%~69%	50%~59%	50%未満	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全国・県平均を超えた項目が、男子は8項目中1つ、女子は8項目中5つであった。</li> <li>●男子は、運動が嫌い、やや嫌いとする生徒の割合が18.9%と高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段階別の目標を設定したスモールステップによる体育科の授業を行う。</li> <li>・屋休憩にグラウンドで遊ぶ生徒を増やせるようボールの貸出を行うなど工夫する。</li> </ul>
信頼される学校	保護者アンケート項目「子どもの学校の現状について」の満足度が昨年度を上回る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○HPや学校だより等で、学校の取組や、やりきる生徒、関わりきる教職員の姿など、前向きな姿を発信する。</li> <li>○学校行事や日々の活動について生徒目線での記事を盛り込んだ親しみやすいホームページを20回以上更新する。</li> </ul>	①保護者アンケートの結果(肯定的回答)の割合	すべての学年が昨年度以上	一部の学年が昨年度以上、どの学年も昨年度未満はなし	昨年度と同じ	昨年度を上回ることができない	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者アンケートの学校満足度の肯定的回答の割合は81%であった(昨年度79%)。</li> <li>○学校だよりは毎月発行することができた。</li> <li>○HPの記事の更新は、2月9日現在で28回できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が明け、保護者の方に学校へ来ていただき、生徒の活動している姿を実際に見ていただく機会が増えたことが、満足度の微増につながったものと思われる。</li> <li>・職員の休みによる自習の時間の多さへの不満は残っており、引き続き職員のメンタルを含めたヘルスクアの重要性が高まっている。職員の細かな変化を見逃さず、声かけを行っていく。</li> </ul>
	教職員アンケート項目「生徒と向き合う時間が確保できている」の割合を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度、組織の見直しを行い、業務の効率化をめざす。</li> <li>○週1回の定時退庁日を設ける。</li> </ul>	教職員アンケートの肯定的回答の割合	80%以上	79%~60%	59%~50%	50%未満	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員アンケートの生徒と向き合う時間が確保できているとした割合は、78%であった。</li> <li>○時間外勤務の月平均の平均時間が1月末現在で35時間50分であった。(昨年度38時間32分)</li> </ul>	